

大塚 讓名誉教授記念号の刊行によせて

学長 山 本 眞樹夫

この度、大塚讓名誉教授記念号が刊行されるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

大塚讓名誉教授は1980年4月本学にて専任講師として着任され、1982年10月には助教授、1994年10月言語センター教授に昇任され、昨年の2008年3月に退職され、実に28年の長きにわたり本学の教育研究にご尽力を頂き、多大なご貢献を頂きました。

私自身の教授に関する印象は、まず他に類をみない極めて熱心なドイツ語教員としての姿です。正規授業やゼミ以外でも、ドイツ語を学ぼうとする学生を、時間を惜しまず指導され、学生が全国的なドイツ語スピーチ・コンテストで入賞を果たした時など、わがこと以上に喜んでいたことを思い出します。

さて、大塚名誉教授は慶應義塾大学法学部及び同法学研究科修士課程で政治学を専攻され、その後改めて同大学文学研究科修士課程及び博士課程で独文学を専攻されています。こうしたご経歴が、教授のドイツ語教員としてのふところの深さ、教育に対する熱心な姿勢に関係していると推察しています。私は門外漢で、本記念号の巻末に掲載されている教授の業績目録より管見するしかないのでありますが、教授の御研究には政治的な言説を含む業績、あるいは言語における政治性を対象とした業績が見られます。また、なによりもドイツ語学習者のコミュニケーション能力向上のための実践的教育方法に関心が向けられています。

言うまでもなく、コミュニケーション能力は政治、経済、ビジネスの世界ではきわめて重要です。国際的な場面では一層その重要性は高まります。商学部の学生に対する、かくも熱心な教育、また自らの研究分野のひとつを「総

合的ドイツ語コミュニケーション能力の習得をめぐる実践的研究」とされていることも、教授が若い頃政治学を学ばれたという事実から、私自身得心しています。また、商科大学のドイツ語教員として最適任といえます。

残念ながら、教授としては本学を御退職されましたが、今後とも名誉教授として本学へのご指導、ご支援を頂けるようお願い致します。